

地域活性化につながる集客材料開発に関する研究
岐阜経済大学 地域連携推進センター 情報技術研究所 ソフトピア共同研究室

経営学部 情報メディア学科 3年 小澤 あんな
経営学部 情報メディア学科 2年 竹之内 真実
経営学部 情報メディア学科 1年 杉山 美優士

1. はじめに

岐阜県岐阜市柳ヶ瀬商店街は、昭和初期に繁華街として栄えたことで知られている。近年は都市郊外型商業施設の煽りを受け、空き店舗の増加が見られるものの、活気の創造を目的とし、住民団体が独自に企画、実行した非公式キャラクター「やなな」が全国的知名度を得るなどの活動がある。これらの活動を支援するという形で継続的に訪問客を増やし、宣伝する材料の開発を考えた。

2013年に行われたJTB旅のアンケート「たびQ」にて実施された「お土産」に関するWEBアンケート調査では、人がある地域を旅行で訪れた際、9割以上がお土産を購入するとの結果が出た。しかし、多くの地域で特色を生かしたお土産が開発されており、お土産そのものを目的として訪問させるのは至難の業である。そのため、我々はQRコードを使用し、画像や動画データで思い出を伝えるデジタルアルバムを活用したお土産の開発が必要と考えた。

2. 調査方法

デジタルアルバムを活用したお土産の開発をするにあたり、柳ヶ瀬商店街の現状を知る必要があった。商店街で働いているからこそ分かる柳ヶ瀬商店街の魅力、名物を詳しく知るために実際に柳ヶ瀬商店街へ出向き、現地で働く方を対象にアンケート調査を行った。

3. アンケートの内容

調査数は柳ヶ瀬商店街に出店している67店舗であった。

1. 性別をお答えください。
2. 年齢をお答えください。
3. 店舗での役割を教えてください。
4. 貴店の店舗名をお答えください。

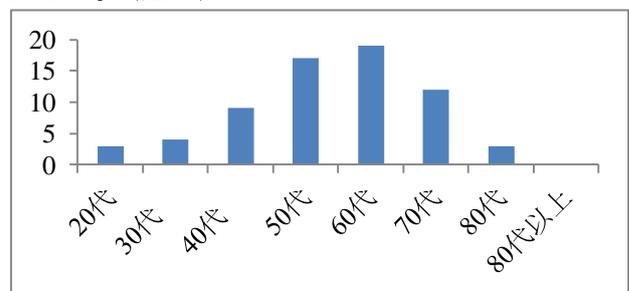
5. 貴店のジャンルをお答えください。
6. 貴店の創業年数をお答えください。(経営年数)
7. 貴店の従業員の人数をお答えください。(専業者を含む)
8. 貴方は商店街出身の方ですか。
9. なぜ商店街に出店されましたか。
10. 貴店の魅力をお答えください。
11. 貴店の名物は何ですか。
12. 貴店の最近の活気についてはどうですか。
13. 商店街の魅力は何とお考えですか。
14. 商店街のお土産、名物は何ですか。
15. 商店街の賑わい作りに何が必要とお考えですか。
16. 情報技術、QR御札システムを商品に活用することについてどう思われますか。
17. 名物やお土産、御札システムについて御意見をお聞かせください。

4. アンケート結果

複数のアンケート内容から以下の項目について抽出した。

➤ 年齢をお答えください。

アンケート回答者の年齢は、60代が最も多かった。次いで50代、70代と続き、高齢の方が多いことが分かる。30代以下の若年層は7名と少ない。(図1)



(図1) 年代に関する結果

➤ 貴店の創業年数をお答えください。

創業年数は平均45年であった。100年以上続く店舗は3店舗であった。基本的に経営年数は

長い。しかし、5年以下の若い店舗が5店舗あり、新たな影響が期待される。

➤ 貴店の従業員の人数をお答えください。

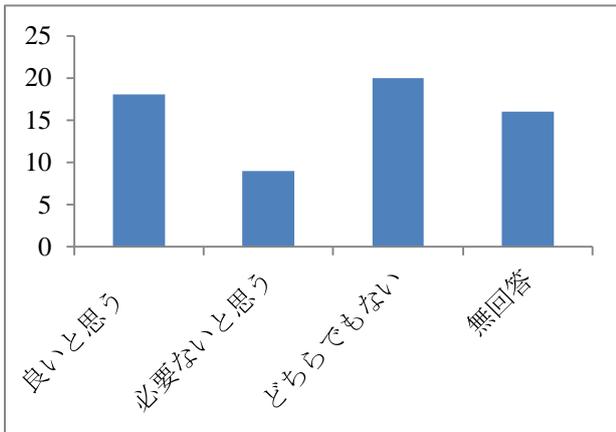
従業員の人数は、2、3名が最も多かった。僅差で1名が続き、店舗内の人間関係の密度が高いことがうかがえる。

➤ 貴店の魅力をお答えください。

店舗の魅力について、「店員と顧客の距離の近さ」が最も多く40票、2位が「親しみやすい雰囲気」で、25票であった。

5. 情報技術、QR御札システムについて

アンケート内容にもあった情報技術・QR御札システムについては、「良いと思う」の18票が、「必要ないと思う」の9票に対し2倍の差をつけた。これは重要な意見である。柳ヶ瀬の店舗の方々も、新しいことに挑戦することに意味があると思われると考える。(図2)コメントでは「情報社会の中、必要だと思う」、「商品の情報などをQRでより詳しく伝えられる」、「QRコードは便利」といった声があった。



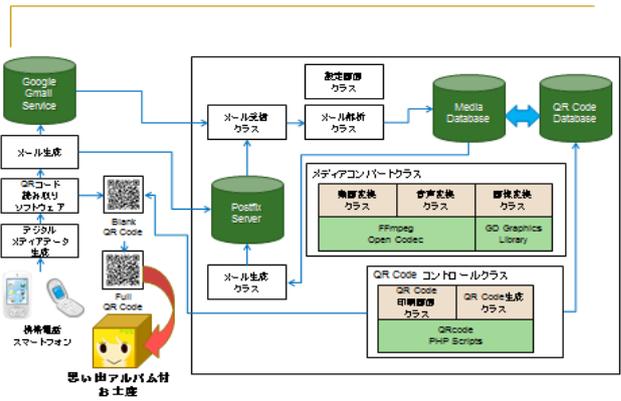
(図2) 情報技術・QR御札システムに関する結果

6. システムの使い方

使用例としては、柳ヶ瀬商店街に行った際、現地の観光地やお土産などを写真や動画を撮影する。それらのデータをQRコードに埋め込み、お土産に添付する。簡単にデジタルアルバムとして見るができるため、旅行先で撮った写真や動画をより多くの人と共有することが可能となる。

また、プラットフォームを選ばないため、携帯電話の機種に合わせて画像を自動変換するこ

とが可能となる。(図2)



(図2) システムの概要

7. 今後の展望

今回の研究を行うにあたり実施したアンケートで、柳ヶ瀬商店街の現状を知ることができた。QRコードに関しては意見として「活用すれば特に若者に対して来街のきっかけになるのでは」、「高齢者にもわかりやすく、簡単にできたら良い」といったものが多く上がった。システムの使い方の例でもあったように、QRコードを使用すれば写真や動画を簡単にデータ化し、共有することができる。これらを行うことにより、旅行先で撮った観光地やお土産の写真や動画を見て、実際にその地へ足を運んでみようと思う人も増え、集客材料に繋がるのではないかと考える。QRコードを活用したデジタルアルバムを柳ヶ瀬商店街のみならず、美殿町商店街や大垣駅前商店街へと広げてゆき、最終的には全国の商店街に活気がつくように、このシステムを活用していきたい。